

能登復興事業 羽田タートルサービス株式会社柔道教室報告書

能登復興事業羽田タートルサービス株式会社柔道教室は、羽田タートルサービス株式会社の主催、石川県柔道連盟・羽咋（はくい）市・羽咋市柔道協会・松柔会（東海大学柔道部後援会）の主管のもと、2024年10月27日(日)に羽咋市武道館（石川県羽咋市）で開催された。講師の上水研一朗氏（東海大学教授）、井上康生氏（東海大学教授）、村尾三四郎氏（ジャパンエレベーターサービスホールディングス株式会社）が来県し、能登地区や県内の少年柔道選手に講義・技術指導を行った。

午前中は中学生の部開式での中西茂宏（石川県柔道連盟会長）の挨拶と酒井政佳（羽咋市立邑知中学校）の選手代表挨拶後、中学生（91名）を対象に実施した。上水氏の講義では問答形式で、郷土愛や柔道に取り組む姿勢を一人ずつに丁寧に問いかけられた。井上氏はウォームアップ・体力づくりやかかり練習の基本を指導された。村尾氏は大外刈の技術指導を行った。受には補助員の高校生（石川県立津幡高等学校柔道部）が担当し、県下の高校生も柔道教室開催のサポートをした。見本稽古において、井上氏と村尾氏が基立ちとなり、男女8名の中学生と自由練習を行った。

中学生の部の全体の記念撮影の後、講師の先生方と中学生の各団体ごとに記念撮影を行った。各全団体には、先生方の直筆サイン色紙と柔道マガジンが贈呈された。

午後の部は小学生（103名）を対象に行った。また、南あわじ市沼島（ぬしま）の小中学生（26名）も参加した。中学生の部と同様に、石川県立津幡高等学校、羽咋高等学校、羽咋工業高等学校の高校生計34名も補助員を担当した。小学生の部の開式では、山本智秀（石川県柔道連盟理事長）の挨拶と岸博一（羽咋市長）の祝辞の後に、松浦祐樹（邑知少年柔道教室）が選手代表挨拶を行った。

上水氏の講義では対象者が小学生なので、易しい言葉で時間をかけて郷土愛や柔道に取り組む姿勢を一人ずつに問いかけられた。加えて、講義中に井上氏や村尾氏の紹介を行った。講義の理解力が向上し、小学生の活動意識が高まった。井上氏は問答形式も積極的に取り入れて、ウォームアップ・体力づくりやかかり練習の基本を指導された。井上氏も村尾氏の紹介と質問応答を行い、村尾氏の人柄や技術特徴を力説された。村尾氏も大外刈の技術指導を行った。釣り手の受鎖骨上部の位置や引手の使い方を説明した。取のづくり時で受を真後ろに崩すことを強調された。大外刈は、受の背部と受の後方量とが最短距離で一本になる。見本稽古においては井上氏と村尾氏が基立ちとなり、男女8名の小学生と自由練習を行った。技の攻防では周りの小学生や保護者、関係者の歓声で会場は盛り上がった。

小学生の部の全体の記念撮影の後、講師の先生方と小学生の各団体ごとに記念撮影を行った。各全団体にも先生方の直筆サイン色紙と柔道マガジンが贈呈された。先生方は全小学生と保護者からの握手攻めにあい、成功裡に本事業は終了した。

石川県柔道連盟能登復興特別委員会委員長 南谷直利

大外刈りのコツを教える村尾さん—羽咋市武道館



五輪メダリストによる柔道教室は27日、羽咋市武道館で開かれ、パリ五輪90^キ級銀の村尾三四郎さんとシドニー五輪100

級金の井上康生さんが県内の小中学生約210人を指導した。小学生の部には約120人が

パリ五輪「銀」 羽咋で柔道教室

村尾さん 大外刈り直伝

参加した。村尾さんはパリ五輪でも相手選手を倒した得意技の大外刈りを実演し、「技を仕掛ける時は真っすぐに入って「相手の体勢を崩すのが大事」と児童に教えた。井上さんは上達に向けたウォーミングアップや乱取りの方法を指導。東海大柔道部の上水研一朗監督は柔道に取り組む心構えを説いた。

最後は、村尾さん、井上さんと児童代表が試合形式で技を掛け合った。村尾さんと組んだ島知少年柔道教室の松浦祐樹さん（羽咋小6年）は「教えてもらった技術を試合で生かしたい」と話した。中学生の部も開かれた。

教室は能登半島地震の被災地を応援しようと、羽田タートルサーブス（東京）が主催した。県柔道連盟や東海大柔道部後援会の松柔会などが主管した。

羽咋市三崎中

息の合ったステージを結



